

産業組織論 第05回

比較静学

他の事情一定

- 他の事情一定 (ceteris paribus) : 考慮する変数以外の要因を変化しないものと考えること。
 - 例: 最適消費 (無差別曲線と予算線の接点) を $(x_1^*(p_1, p_2, I), x_2^*(p_1, p_2, I))$ とすると、第1財の需要曲線は p_2 (第2財の価格) と I (所得・予算) を一定として描く (もちろん、モデルに入っていない要因も一定)。

比較静学

- 比較静学: ある変数が変化したときに均衡などがどう変化したか比較すること。
 - 例 他の財の価格が変化することで需要曲線が変化(シフト)したとき、市場均衡がどのように変化するか。

課税の効果

生産者に財1単位当たり t 円を課税する場合

「逆」需要曲線： $p^d = P^D(y)$

「逆」供給曲線： $p^s = P^S(y)$

- 課税前 $p^d = p^s$ 、課税後 $p^d = p^s + t$ （支払価格＝税金を取られる前の受取価格）
- 課税後の均衡条件： $P^D(y^*) = P^S(y^*) + t$ （供給曲線を t だけ上にシフトさせた曲線と交わるところで決定）

消費者に課税しても結果は同じ。

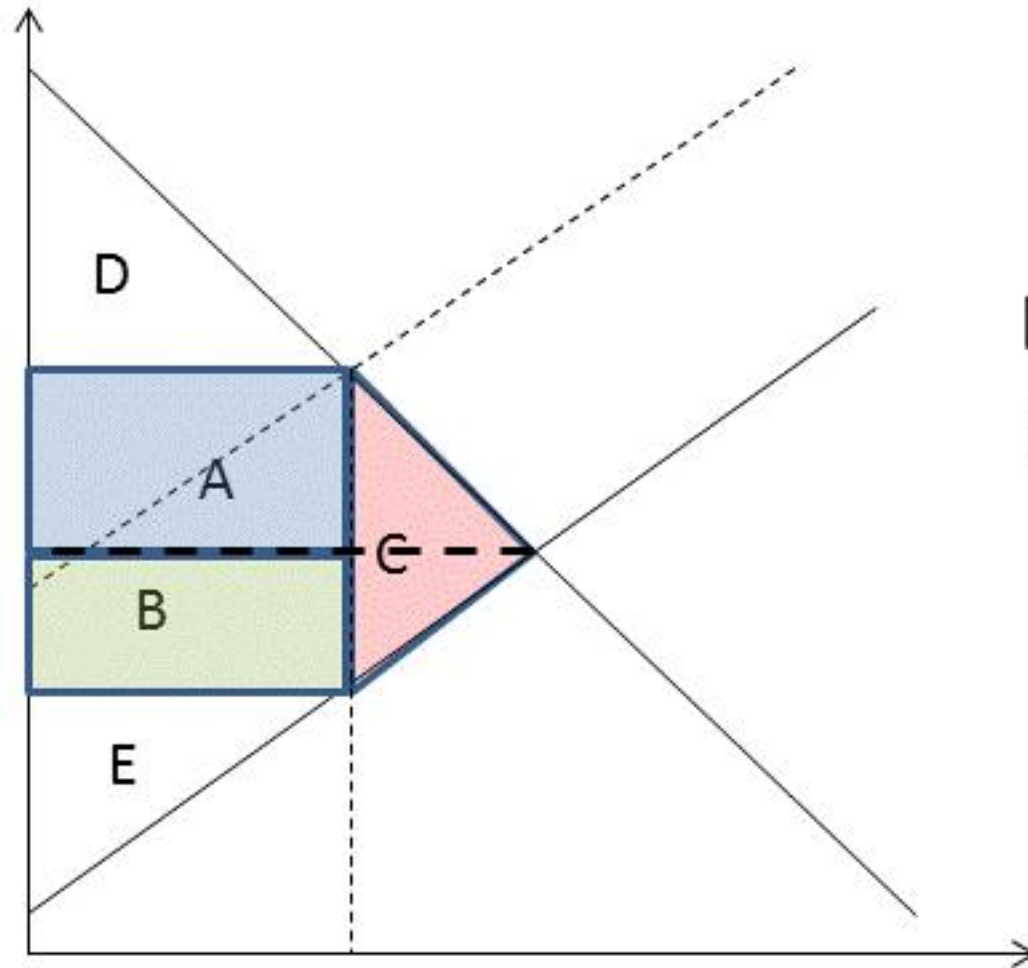
税の転嫁

誰が税を負担するかは何によって決まるか？

- 先の分析から、課税される対象が問題ではない。
- 需要曲線の傾きと供給曲線の傾きによって決まる。
 - 需要曲線が非弾力的＝価格が変化しても消費量が変わらない＝価格を上げてても消費者は逃げない＝転嫁できる

死荷重

- 死荷重（死重損失、デッド・ウェイト・ロス）：社会的余剰の減少分



$A + B =$ 税収

C: 死荷重

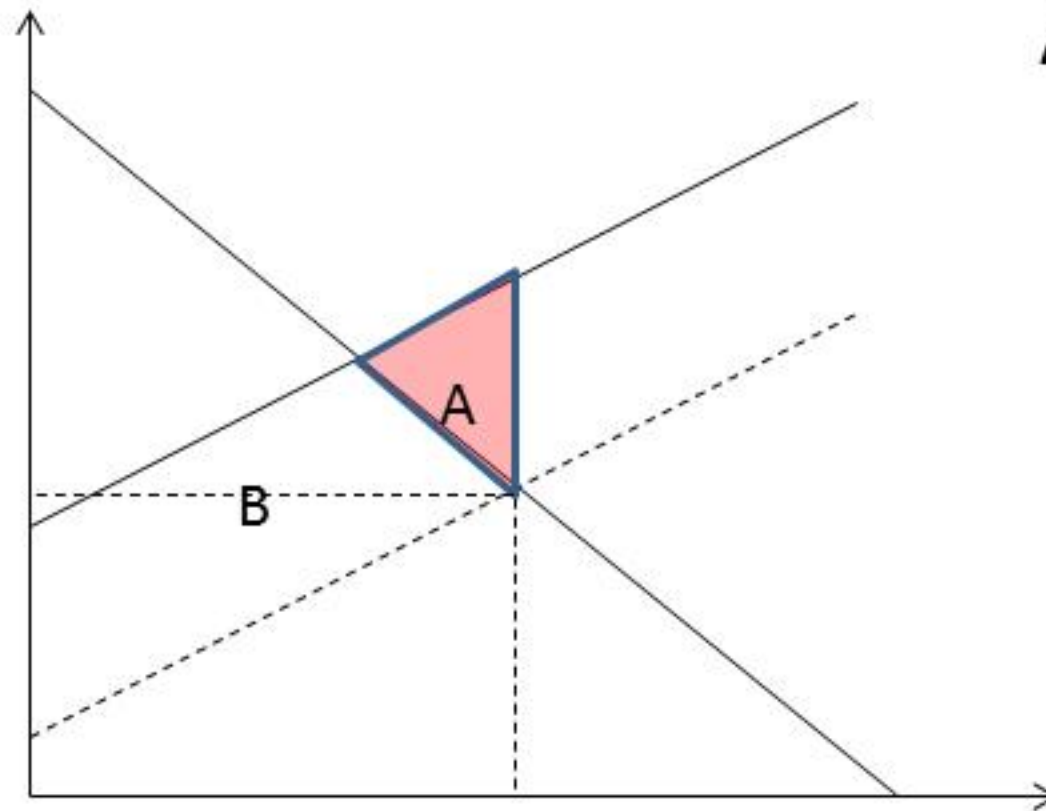
D: 消費者余剰

E: 生産者余剰

補助金

- 課税による死荷重の原因
 - 取引量の減少(買いたいのに買えない、売りたいのに売れない)
- 補助金を出すと取引量は増えるが、どこかから税収が必要。
- 高コストな生産者(本来なら高く売れない分)にも補助金を支出するため、死荷重が発生。

補助金



$A+B = \text{補助金}$

A: 死荷重